

公園・夢プラン大賞では、2部門を募集しています。

「公園・夢プラン大賞」は、全国の公園緑地を舞台に、市民による自由な発想で実施されたイベントや活動、これからやってみたいアイデア・プランを募集し、審査表彰するもので、公園を楽しく使いこなす人々を更に増やしてゆくことを目指しています。

募集期間

2024年4月19日(金)～2024年9月27日(金)

応募方法

- ホームページの応募フォームからご応募ください。
- 応募用紙に必要事項を記入し、Eメールでお送りいただくこともできます。
- 郵送での応募も受け付けます。「やりたい夢」部門はFAXも可
- 「実現した夢」部門については、実施状況写真(3枚まで)は必ず添付してください。

審査のポイント

- ワクワクして、夢があり、みんなで楽しめるもの
- オリジナリティや話題性、新しい提案があるもの
- フィールドや資源、人材を活かし、地域と連携したもの



「実現した夢」部門

公園で行われ、皆さんの「夢の実現」となった、素敵なイベントや活動を募集します。

応募条件

- 過去5年間(2020年1月1日以降)に、公園で実施されたイベントや活動とします。イベントや活動の主催者は問いませんが、市民が主体となり実施したイベントや活動とします。
- 個人・グループ・団体・企業を問わず、どなたでも応募できます。自薦・他薦を問いません。
※他薦の場合は、イベントや活動実施者の了解を得てください。
- 過去に「公園・夢プラン大賞」に応募したイベントや活動も応募できます(入賞・入選プランを除く)。

表彰

- 最優秀賞 賞状+副賞(10万円のギフト券)×1本
- 優秀賞 賞状+副賞(5万円のギフト券)×2本
- 入選 賞状+副賞(1万円のギフト券)×5本

※入賞・入選者にはホームページなどで使えるエンブレムをお贈りします。
※他薦の場合、賞状及び副賞は夢を実現させた団体・組織へお贈りします。

「やりたい夢」部門

公園で「やってみたい」「できたらいいな」という楽しいイベントや活動のアイデアを募集します。

応募条件

- どなたでも応募できます。
- 応募プランは、実際に公園のイベントとして実現することがあります。
- 応募プランの実現に際しては、内容の一部が変更される場合があります。
- 指定管理者等、公園管理に携わる方のアイデアも大歓迎です。

表彰

- 最優秀賞 賞状+副賞(5万円のギフト券)×1本
- 優秀賞 賞状+副賞(3万円のギフト券)×2本
- 入選 賞状+副賞(1万円のギフト券)×5本

結果発表

審査結果は12月上旬頃、「公園・夢プラン大賞」ホームページ上で公開します(受賞者には直接お知らせします)。 URL <https://yumeplan.prj.or.jp>

公園・夢プラン大賞2023 審査結果発表

2023年11月28日(火)に実施した審査会(審査委員長:三島孔明 准教授 千葉大学大学院 園芸学研究院)による厳正な審査の結果、以下のプランが入賞しました。

「実現した夢」部門

週末の公園は子育て家族のテーマパーク

実施者: NPO法人 桂公園こどもランド
実施公園: 桂公園こどもランド(新潟県十日町市)

応募件数

38件



2019年から旧交通公園の敷地で通年土日祝日に「ゴーカート」など乗り物の運行を行っています。2022年には、廃園となった遊園地の「働く車バッテリーカー」を譲っていただき、当公園仕様に改良してメインの乗り物とし、走らせています。

乗り物の運行をしない平日には、家庭で購入しても短期間で不要となりやすい「キックバイク」や「練習用自転車」を置き、無料貸出しを行っています。夏季の土日祝日には、芝生にビニールプールを並べて水遊び広場を開設するなど、遊びの幅を広げています。

園内には、来園者へのメッセージやURL、公園のホームページに繋がる二次元バーコードを設置するなど工夫もしています。

植栽では、春に「菜の花畑」を作っていた場所に、夏にも「ヒマワリ畑」を作る二毛作にしました。背が低く花粉が出にくいなど、来園者目線で毎年品種を変えています。

アピールポイント

長引く経済の低迷で子育て家庭の家計は厳しく、特に地方では大型遊園地などに連れて行ってもらえる子供はほんの一握りです。そこで地域の公園を、家計に負担なく気軽に行って楽しめるテーマパークにできたらと考えました。人が出掛けるということは、「非日常」を求めているのではないかと考えます。そこで、公園づくりは非日常的要素が大切だと考えました。しかし同じことを続けていれば、常連さんにとっては日常になってしまうため、常に変化のある公園づくりを心掛けています。老朽化した公園のリノベーションを始めてから9年目となりますが、お陰様で年々人気も高まり利用者も増え続けています。



「やりたい夢」部門

障害のある子もいない子も一緒に遊べる公園

応募者: 大塚 志津子
実施希望公園: どの公園でもよい

応募件数

345件



私の子供は重度の自閉症です。公園でほかの子供たちと一緒に遊びたいと思っていても難しいときがあります。発達障害の子供たちは運動機能の不器用さもあり、体を動かすのが上手ではありません。そのため運動不足になる傾向があります。また、視覚的な手掛かりがあると理解度が高まり、遊具など正しい使い方を理解することができ健康児と一緒に遊ぶことが可能となります。体の動きが不器用でも、握る力が弱くても、順番を理解するのが苦手でも、遊具にちょっとした配慮や視覚的な手掛かりがあれば、いろんな障害があっても、年代が違っていても一緒に遊べる公園になると考えました。

アピールポイント

- ①腕の力がなくても乗れるターザンロープ カゴ状になったカートに座ることで障害のある子もターザンロープを楽しむことができる。背中にも落下防止のネットがあると安心。
- ②高さが10cmの平均台 高いところが怖くても体のバランス感覚を習得できるように平均台の高さを10cmにしました。
- ③巨大スポンジのお城 スポンジの上を歩くと足元が沈んで意外と体力が消耗します。それでも子供たちは高いところを目指して上ってみたい気持ちになります。またスポンジなので落下しても大丈夫。
- ④タイヤや廃材で作った迷路 いろんな形の迷路です。幅が狭くなったり、中腰にならないと通れない高さのもの、上に登ったり下に降りたりして、自分の体の幅やボディイメージを習得する迷路です。
- ⑤歩幅のついたウォーキングコース 障害のある子は運動が苦手な子が多いので、歩いていても歩幅が狭い子が多いです。公園に行っても歩くためのガイドラインはあっても歩幅を大きく歩くための視覚的目印はなく、日々、障害のある子供と歩くときには、いつも欲しいなあと思っています。
- ⑥おわん型の回転遊具 障害を持っている子供は感覚遊びが好きです。回転する感覚を好む子供も多いです。障害を持っている子供でも安全なように、おわん型で落ちない配慮をした回転遊具があればみんなで楽しむことができそうです。